



▲ 終局後登壇する両対局者

▲ 渡辺九段らによる大盤解説会

清風荘では、大盤解説会が開かれ、渡辺 明九段をはじめ、立会人の深浦 康市九段や大橋 貴洸七段、佐々木 慎七段、村田 顕弘六段の解説を聴こうと県内外から 300 人の参加者が詰めかけました。

参加者は、棋士による解説に聞き入り、対局の流れを予測していました。渡辺九段による棋士のプライベートな話や普段知ることのできない裏話など、軽快なトークに会場は笑いに包まれていました。

終局後には、藤井竜王と佐々木八段も登壇し、両棋士は会場のファンに応援への感謝を述べました。

あわらでの第 2 局は、挑戦者である佐々木八段が藤井竜王を破り、今期七番勝負の対戦成績を 1 勝 1 敗としました。

佐々木八段

藤井竜王



対局二日目 十月二十日(日)

対局 2 日目の勝負めしは藤井竜王が「ホルモンうどん」を、佐々木八段が「越前おろしそばセット」を選びました。

また、佐々木八段は勝負おやつとして「あわらとみつ金時チーズケーキ」、「パイナップル大福とイチゴ大福」、「完熟越のルビートマトジュース」を 1 日目と合わせて 4 回連続で選んでいました。両棋士とも 1 日目に引き続き、福井・あわらの多彩な味覚を楽しんでいました。

▼ 対局 2 日目に両対局者が選んだ
勝負おやつ・勝負ドリンク・勝負めし

メニュー情報はこちら▶



▲ 記念品の贈呈をうける両対局者



▲ 来場者を前に記念撮影

9 月に開催された「第 28 回越前朝倉象棋大会」ジュニアの部で優勝した須長 篤司さんと岩井 心優さんが花束贈呈を務めました。

藤井竜王に花束を渡した須長さんは「最初は緊張したけど、嬉しくて夢を見ているようでした。」と話し、佐々木八段に花束を渡した岩井さんは「貴重な経験ができました。佐々木八段に『頑張ってください。』と声をかけたら、『ありがとうございます。』と優しく答えてくれました。」と笑顔で話してくれました。

前夜祭で花束を贈られる佐々木八段（左から二人目）と藤井竜王 ▶
あわら対局実行委員会 読売新聞社撮影
花束贈呈：岩井 心優さん（一番左） 須長 篤司さん

第 37 期竜王戦七番勝負第 2 局あわら対局が 10 月 19 日（土）、20 日（日）に美松で開催されました。

対局に先立ち、18 日（金）にはグランディア芳泉で前夜祭が開かれ、県内外の将棋ファン 200 人が来場しました。

4 連覇がかかる藤井 聡太竜王は「多くのの人に最後まで楽しんでいただけるよう全力を尽くす。」と意気込み、挑戦者の佐々木 勇気八段は「熱戦で応えたい。対局モードになってきた。」と強い決意を語りました。



前夜祭 十月十八日(金)



第37期 竜王戦

主催：読売新聞社 日本将棋連盟

あわら対局

AWARA CITY 20th ANNIVERSARY
20 あわら市制
周年記念

※ 背景は「竜悠」の間に描かれた竜の一部です。



▲ 対局から一夜明けて「芦湯」での撮影取材に答える両対局者

10 月 21 日（月）に、熱戦を繰り広げた両棋士は「芦湯」を訪れ、2 日間のあわら対局を振り返りました。対局室「竜悠」について、佐々木八段は「畳などが新しく、気持ち良く指せる環境だった。」、藤井竜王は「越前和紙の竜が雰囲気があり、素晴らしい対局室だった。」と評しました。

また、勝負めしやおやつの感想を求められると、餅好きで知られる佐々木八段は「どれも美味しかったが、フルーツ大福はぺろりと食べられた。」、藤井竜王は「おろし蕎麦の辛みが強いことに驚いた。今まで食べてきた蕎麦とは違い、本場の味を楽しむことができました。」と満足した様子でした。

両棋士は県内の将棋ファンに感謝を述べ、さらなる将棋の盛り上げりに期待していました。



▲ あわら温泉湯のまち広場のベンチで記念撮影する両対局者



▲ 村田六段による指導対局



▲ あわら市将棋大会の様子

竜王戦あわら対局 1 日目が美松の「竜悠」で行われました。対局と同じく注目を集めるのが「勝負めし」、「勝負おやつ」、「勝負ドリンク」です。今回、市内 38 の事業者が食材や見た目にこだわった勝負メニューを提供しました。

1 日目の勝負めしには藤井竜王が「辛味しばりおろし蕎麦と小天丼」を、佐々木八段が「海鮮玉手箱」を選び、福井の特産物を堪能していました。

▼ 対局 1 日目に両対局者が選んだ
勝負おやつ・勝負ドリンク・勝負めし

メニュー情報はこちら▶



佐々木八段

藤井竜王



対局一日目 十月十九日(土)